

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-55	小学校	外国語科	英語	5
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	英語 501 502	NEW HORIZON Elementary English Course 5 NEW HORIZON Elementary English Course Picture Dictionary		

1 編修の基本方針

みんなが英語を好きになる!

——豊かな学びが未来を拓く——

「どんなことができるようになるのかな?」「うまく思いが伝えられるのかな?」

そんな期待と不安のなか、いよいよ小学校で新教科英語がスタートします。

今、求められるのは、だれもが「英語の授業は楽しい!」、「学び続けたい!」と思える教科書です。

本教科書は、教育基本法の目的および理念を踏まえ、
英語を通じて主体的に他者や世界とつながる「心」と
グローバル社会を生きるために必要な
コミュニケーション能力の「基礎」を育てます。



特色1 「もっと学びたい!」を育てる教科書

「なぜ英語を学ぶのか」を紙面ではっきりと伝え、児童の学ぶ意欲を引き出します。楽しいコミュニケーション活動を通じて思考力、判断力、表現力を育み、中学校での学習につなげます。

特色2 「何ができるようになるのか」が分かる教科書

学年ごとに設定したテーマを三つの小テーマでまとまりに分け、学びのロードマップを明示。まとまりの中の各単元 (Unit) もシンプルなスモールステップの構成で、見通しを持った学習ができます。

特色3 「どのように学ぶのか」を示す教科書

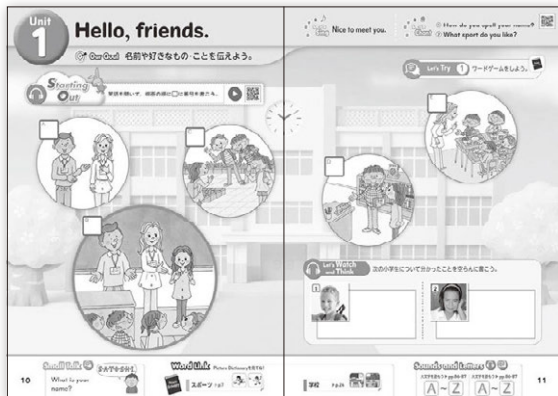
初めての教科化であることを踏まえ、学習内容を見やすく分かりやすく配置しています。また、学びに役立つ音声や映像をふんだんに用意し、紙面上のQRコードやURLからも適宜選んで活用できるようにしました。授業で併用するPicture Dictionaryは、携帯して自学自習にも使うことができます。

特色 1

「もっと学びたい！」を育てる教科書

1 日常生活に密着した内容とストーリー設定で、より身近に

各単元(Unit)の導入では、児童にとって身近な事柄を題材として取り上げ、一般的な公立小学校を舞台にした、外国人の児童や先生が登場するストーリーにしました。多くの児童が「自分のこと」として自らの学校生活と重ね合わせながら取り組むことができ、学習への関心・意欲を高めます。



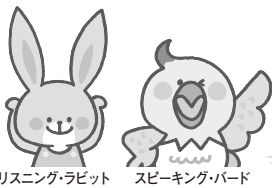
Unitの導入ページ [Starting Out] の例 (pp.10-11)

2 『We Can!』『Let's Try!』の活動を重視してスムーズな接続を図る

各単元の展開ページでは、新学習指導要領の趣旨を具現化した小学校外国語教材『We Can!』, 外国語活動教材『Let's Try!』に近い活動を多く盛り込み、文部科学省が求める「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」を確実に育成することをめざしました。

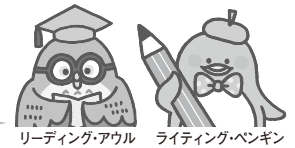


Unitの展開ページ [Your Turn] の例 (pp.12-13)



リスニング・ラビット スピーキング・バード

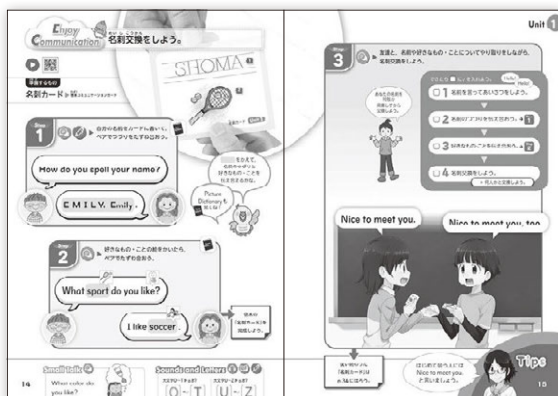
4技能別のかわいらしいキャラクターたちがナビゲート！活動ごとに、聞く(👂)、話す(やり取り)🗨️、話す(発表)🗨️、読む📖、書く📝、統合🔄の5領域アイコン付き！



リーディング・アウル ライティング・ペンギン

3 目標や学び方と、学びの成果がはっきり見える

各単元の後半では、学習目標の中心となるコミュニケーション活動の、目的・場面・状況及び言語の働きを視覚的に示して、何をどのように学ぶかが紙面から伝わる工夫をしました。また、巻末コミュニケーションカードを教科書紙面に貼り込めば、ポートフォリオとして評価や振り返りの材料になります。



Unitのまとめページ [Enjoy Communication] の例 (pp.14-15)

4 日本のこと、世界のことへの好奇心を刺激する

各単元末には、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、自ら読み進められるように、異文化情報を用意しました。英語を主体的・対話的に、深く学び続ける姿勢を育むことがねらいです。日本語と英語の語順の違いなどに気付きを与える「ことば探検」のコーナーもあります。



Unitのオプション拡充ページ [Over the Horizon] の例 (pp.16-17)

特色 2

「何ができるようになるのか」が分かる教科書

1 目標を明確化したテーマ別構成で「学びの現在地」が分かる

5年は「日本」、6年は「世界」をテーマに学習内容を組織しました。各学年別テーマには、それぞれ大きく三つのまとまりがあり、「学びのプロセス」を年間70時間の指導時数内でスムーズに進められる構成になっています。5年には、「自己紹介」「地域紹介」「日本紹介」を目標とする学びのロードマップがあります。



「学びのロードマップ」(表紙裏-p.1)

2 「確かめる」「振り返る」活動で学習到達度をチェック

年に三回の総まとめページには、巻末コミュニケーションカードをもう一度使って、クラスで自己表現する活動が用意されています。この活動を通して、各テーマ別の学習到達度を児童自らが把握できます。参照ページで、つまりいたときにどの単元(Unit)に戻るかも明確です。指導者には、評価の参考となるページになります。



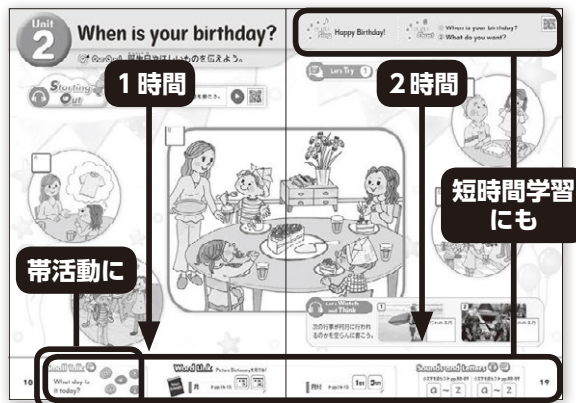
総まとめページ [Check Your Steps] の例 (pp.82-83)

特色 3

「どのように学ぶのか」を示す教科書

1 教えやすく、学びやすい 1ページ1時間扱いの見開き構成

ページ右上の歌やチャンツ、脚注のSmall TalkやWord Linkなどは、基本表現を学ぶためのパーツです。これらを短時間学習を含む指導の実態に沿って組み合わせながら、70時間をカリキュラム・マネジメントすることができます。音声・映像は、QRコードやURLからも活用できます。



導入ページ [Starting Out] にある要素 (pp.18-19)

2 いつでもどこでも学びたい気持ちに応える、Picture Dictionary

小学校で学びたい662語や表現をジャンル別にまとめました。本体と組み合わせて使います。授業でワードゲームなどに使えば、活動が広がります。4線上の単語は、正しく「書き写す」活動のモデルです。QRコードやURL(ICT教材)で、メトロノームのリズムに合わせた発音練習ができます。



Picture Dictionary (pp.6-7)

2 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
全体	<p>①各Unitで取り上げた題材を通して異文化の発想や考え方を知り、多様性を認める広い視野を育成します。(第1号)</p> <p>②2020年の東京オリンピック・パラリンピックを受けて、各Over the Horizonでは、児童の興味関心に広く訴える題材・素材を取り上げ、それに関連する言葉への豊かな情操を育成します。(第1号)</p> <p>③Picture Dictionaryに設けた表現集で、幅広い知識と教養が身に付き、豊かな自己表現につながります。(第1号)</p> <p>④学びの系統性を重視した基本構成のもと、導入パート(Starting Out)で繰り返しインプットされた音声を手掛かりに、展開パート(Your Turn)で表現に慣れ親しみます。その表現を使ったコミュニケーション活動を楽しむ体験(Enjoy Communication)が、実生活・実社会に生かされることをめざします。(第2号)</p> <p>⑤グローバル社会の一員として、すべての人権を等しく尊重する意識を醸成できるように配慮しています。(第3号)</p> <p>⑥ペアやグループ、クラスで取り組むコミュニケーション活動を豊富に用意し、協力し合う心を育みます。(第3号)</p> <p>⑦イラストや写真も含め、男女が協力して家庭生活を営み、男女共同参画社会に資する姿を示しています。(第3号)</p> <p>⑧教科内容を題材に、さまざまな言語活動で4技能を高めるCLIL(クリル)の考えを取り入れています。例えば国語科・社会科・家庭科・算数に関連して、英語で郷土料理を注文・会計する教材を扱います。2学年を通して「自分」→「人」→「社会(世界)」→「生命や自然」と関わりを広げる基本構成を、「特別の教科 道徳」の四つの視点に関連させています。(他教科関連マーク「㊦」参照。)(第5号)</p> <p>⑨伝統や文化に関する題材を豊富に取り上げ、世界に日本の良さを発信しようとする児童を育てます。(第5号)</p> <p>⑩外国の生活や文化を理解し尊重する心を育み、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養います。(第5号)</p>	<p>①11・16～17ページ、Let's Watch and ThinkとOver the Horizonなど</p> <p>②53ページ、「ピクトグラム」、60ページ、「ことば探検：外国から来たことば」など、毎単元</p> <p>③Picture Dictionary 38～41ページ、「あなただけの表現を見つけよう」、表紙裏・裏表紙裏、「こんなときどう言うの?」</p> <p>④10～15ページ、Unit 1, Starting Out「名前や好きなもの・ことを伝えよう。」→Your Turn「名前のつづりや好きなもの・ことをたずね合おう。」→Enjoy Communication「名刺交換をしよう。」など</p> <p>⑤74～75ページ、Unit 8「Who is your hero?」</p> <p>⑥82～83ページ、Check Your Steps 3「『日本のすてき』を紹介しよう」</p> <p>⑦74～75ページ、Starting Out「あこがれの人について発表しよう。」</p> <p>⑧54～61ページ、Unit 6「What would you like?」、72ページ、「ことば探検：世界に広がる日本語」</p> <p>⑨65～83ページ、Open the Door 3「日本のことを紹介しよう」</p>  <p>⑩16～17ページ、Over the Horizon「世界の名前について考えよう。」「姓と名の順番」</p>
Unit 1～8 学び方 みつけた! Unit8	<p>①同世代のキャラクター達の日常を描いたドラマ仕立てのストーリーによって、児童が自らの日常生活と重ねることができ、社会に開かれた教育課程の実現につながります。(第2号)</p> <p>②日本に暮らす外国の人々向けに「広域避難場所」を多言語で表示した標識を通して、東日本大震災などの自然災害から得た教訓を学び、ESD教育・防災教育につなげることが出来ます。(第3号)</p> <p>③日本の伝統文化「落語」を取り上げ、文化の違いをこえて通じる「笑い」について考えさせます。(第5号)</p>	<p>①全Starting Outのリスニングスクリプト</p> <p>②36ページ、「身のまわりのアルファベットをさがそう。」</p> <p>③75・81ページ、Interviews!「日本のすてき(近畿地方編)」</p> 
Picture Dictionary	<p>①メトロノームを使ったリズム(QRコード・URLからも活用可能)に乗せて英語の基本的な語彙を発音練習することによって、日本語とは異なるリズムに気付き、理解しようとする態度を養います。(第1号)</p> <p>②2020年の東京オリンピック・パラリンピックを受けて、スポーツや芸能の話題を通して世界とのつながりへの気付きを与えます。(第5号)</p>	<p>①4～31ページ、「Words」ほか</p> <p>②7ページ、スポーツを表すことば「Let's enjoy the Olympics and the Paralympics.」</p> 

3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1) すべての児童が使いやすい紙面への配慮

① 特別支援教育への配慮

特別支援教育の専門家の助言の下、文字認識のつまずきポイントに留意して、すべての児童にとって「分かりやすい（＝読みやすく、書きやすい）」**新ユニバーサルデザイン（UD）書体**を開発しました。児童が「紙面でそのまま真似して」書くことができるアルファベットです。**4線ノートの幅や線種、基線の色使い**にも細心の注意を払いました。従来のものとの違いは右図のとおりです。

- (1) bとd、pとqなどの丸い部分は正円にはせず、あえて不均等にして、読むときの視覚的な混乱を回避しています。定着しにくい小文字でも、4線ノートの第2線と基線の間の幅が広いと、文字の形や高さを区別しやすくなります。
- (2) 多くの小文字の高さに当たる第2線は点線にして、大文字を書く際の目安にもなることを意図しました。小文字は点線に合わせて、大文字の半分の高さの横線は点線のすぐ下に書くことによって、小文字と大文字をバランスよく書くことができます。基線の色覚特性に判別しやすい太線・青色としました。

さらに、**色覚特性の研究者による検証**も行い、**拡大教科書**も発行予定です。

② ユニバーサルデザインへの取り組み

単元のテーマに沿った明確な目標の下、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの**活動を紙面上の定位置に配置**することで、学習の流れを分かりやすく示しました。また**外国人児童にも目標が伝わりやすい**ように、4技能キャラクターや指示文のアイコンを工夫しました。

③ 学び方を導引する体様の工夫

児童が書き込んだり切り貼りをしたりする本体は、各学年とも**書き込みなどの活動用スペースにゆとりのある大判（A4サイズ）**にしました。また、絵辞書として中学校でも大人になっても使い続けてほしいPicture Dictionaryは、**携帯に便利なAB判**にしました。どちらも児童の**学びの足跡が記録に残るポートフォリオ**になります。

2) 今日の課題への取り組み

④ 教員の「働き方改革」への配慮

授業の準備や評価を効率的に行い、児童と向き合える時間を確保できる工夫をしました。**学級担任の教えやすさ、全児童の学びやすさ**を考慮して、指示文などの文字情報を丁寧に教科書紙面に載せました。各学年巻末には**活動用の絵カード**（切り取りミシン目入り）を厚手の用紙で用意し、また4線ノートや音声指導用の特設ページを**鉛筆で書きやすい特殊な用紙**で綴じ込み、**追加のワークシートがなくても指導できる体様**にしました。

⑤ 評価への対応

目標（CAN-DOリスト）を明示し、**評価のアカウントビリティ（説明責任）**にも活用できる確認・振り返りパート（Check Your Steps）と密接な結びつきを持たせています。※パフォーマンス評価対応可。

⑥ デジタルコンテンツの充実

教員も児童も、一斉授業・個別学習など、必要と環境に応じて使えるように、英語の音声や、活動の手順・海外情報の映像、歌やチャンツ、アルファベットのクレイアニメなどは、**デジタル教科書や各種教材、教師用指導書とは別に、QRコード・URL**からも活用できるようにしています。映像と音声は選んで使えます。



⑦ カリキュラム・マネジメントへの取り組み

紙面は1ページ45分、各活動は約15分単位で構成され、**短時間学習**にも配慮しています。共通の題材、例えば「自己紹介」を、2学年を通じて系統立てて繰り返し扱う構成は、**複式学級指導**にも適しています。携帯ができ、QRコードが豊富なPicture Dictionaryは、**家庭学習**にも活用できます。完成した巻末コミュニケーションカードを、国際交流プロジェクトに応用して、**地域・社会との連携**も図れます。

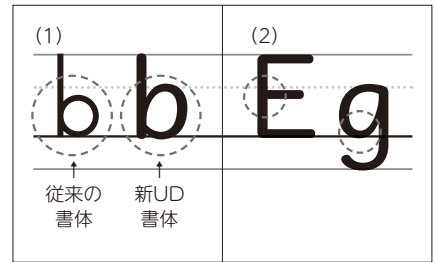
3) その他の取り組み

⑧ 小学校中学年・中学校・高等学校接続への工夫

文部科学省発行の**中学年外国語活動教材『Let's Try!』**で慣れ親しんだ言語材料を、各Unit導入パートの音声でスパイラルに取り扱うことによって振り返り、**円滑な接続**が図れるように構成されています。また、中学校の学習にも配慮して選定された語彙が収録されているPicture Dictionaryは、小学校での学びを確かめながら**中学校でも活用し続ける**ことができ、小学校で何を学んだかが大人になっても分かります。

⑨ 教科横断への工夫

小学校文化に根差した英語教育の視点から、**CLILの考え方**をしっかりと取り入れています。



※英語圏では4線の幅に決まりはなく、日本の従来型のものよりも、書きやすさを重視した幅違いのものの方が一般的です。

※教科書p.36には4線ノートとアルファベットについて確かめるページがあります。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-55	小学校	外国語科	英語	5
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	英語 501 502	NEW HORIZON Elementary English Course 5 NEW HORIZON Elementary English Course Picture Dictionary		

1 編集上特に意を用いた点や特色

特色 1

「もっと学びたい!」を 育てる教科書

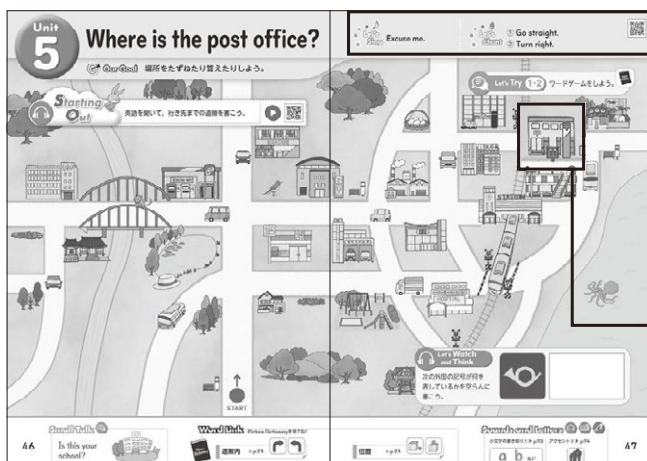
英語はコミュニケーションの手段のひとつです。そのため、他者に配慮し、目的・場面・状況を意識した言語活動を楽しく行うことが大切です。本教科書は、その実現に向けて、さまざまな工夫を盛り込みました。

「なぜ英語を学ぶのか」を問いかける

3・4年の外国語活動を踏まえ、5年の冒頭では、将来自分が英語を使ってしたいことを想像させ、教科として学ぶ英語に児童が目標をもって臨めるようにしました。



(pp.2-3)



Unit 5の導入ページ (pp.46-47)



▶「歌」と「チャンツ」で言語材料に慣れ親しむ

各Unitの内容に一致した歌とチャンツを豊富に用意しました。基本表現や英語特有のリズム・イントネーションに、楽しく自然に慣れ親しんでから、言語活動に向かいます。単元・年間を通して、いつでも何度でも繰り返し聞けます。

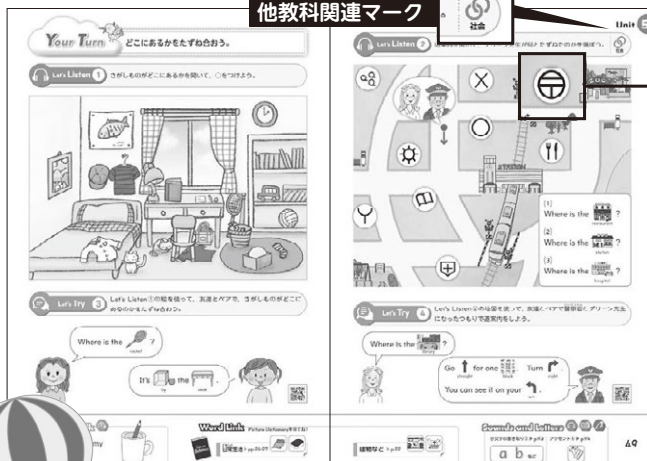


▶教科を横断して、言語や文化を語らう楽しさを知る

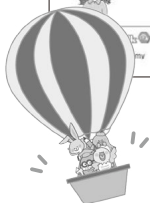
学校生活や他教科で得た体験や知識は、学級担任や級友とだからこそ共有できます。これを英語に出会って広がる世界に照らし、違いなどを発見する喜びや驚きを分かち合えるように、紙面の充実を図っています。

p.47と同じ地図をp.49に掲載し、施設のイラスト (p.47) と地図記号 (p.49) を対照することができます。

他教科関連マーク



Unit 5の展開ページ (pp.48-49)



特色2

「何ができるようになるのか」が分かる教科書

外国の言葉を習得するには、言語材料をスパイラルに積み上げ、繰り返し使う場面設定が重要です。本教科書は、学年の目標やテーマに沿って、各単元内の活動を簡単な言語材料と児童の身近な場面で精緻に組み立て、Small Talkなどで繰り返し使って、中学校・高等学校につなぐ確かな力を育てます。また単元のまとまりごとに振り返りのページを設け、つまづいたときに振り返る工夫があります。CAN-DOリストもご活用ください。

この教科書で英語を学ぶみなさんへ

たくさんの発見をしながら、

8つのUnitと3つのCheck Your

Unit → 基本的な単語や表現を学びます。

音に

出会う

Starting Out

英語の表現を、楽しいストーリーにして聞きましょう。全Unit通しのストーリーや歌・チャンツが用意されています。

会話に

慣れる

Your Turn

「あなたの番」という意味です。教科書のストーリーから飛び出して、先生や友達と英語でやり取りをして、もっと知り合しましょう。

コミュニケーションを

楽しむ

Enjoy Communication

英語を使う本物の場面で会話を楽しみましょう。コミュニケーションカードを手作りしたり、ことばの働きについて話合ったりして、学びを深めましょう。

世界を

広げる

Over the Horizon

コミュニケーション活動と同じテーマを、身近なことや他教科につなげて、学びをより豊かにしましょう。

日本で書く
外国人の英語のインタビューの音声や映像があります。

「日本のすてき」
案内役 まり絵

英語を学ぼう。Let's start!

Steps

Check Your Steps
→ Unitをまとめます。

学びを
確かめる

各UnitのEnjoy Communicationで作った期末コミュニケーションカードと、学んだ英語を使って、できるようなつづきごとを振り返ります。

教科書で使われている主な記号

- 🎧 **QR Code** 単元の目標です。
- 📄 **Activity** 単元の目標を次のマークで示しています。
- 👤 **Friend** 友達や先生と「聞く」活動です。
- 👥 **Class** クラスのみんなに内かって「話す(発表する)」活動です。
- 🎵 **Music** Unitのテーマに合った歌を歌いましょう。
- 🗣️ **Small Talk** 身近な話題で英語の練習をしましょう。
- 📖 **Unit** で学習する単語や表現のチャンツを学びましょう。

教科書で使われている主な記号

Picture Dictionary といっしょに使おう!

学校で使おう!

- ボインティング・ゲームに!
- 4線上に文字を正しく書き写すときに!

家庭でも使おう!

- 小学校で学びたい約700語がまとまっているよ。
- QRコードのメトロレーニングもやってみよう。

中学校でも使えるよ!

(pp.4-5)

▶ 中学校・高等学校につなぐCAN-DOリスト
小学校5・6年生で、英語のできるようになる・なったことを確かめるチェックリストです。

英語で何ができるようになるのかな?

Unit 1: ...
Unit 2: ...
Unit 3: ...
Unit 4: ...
Unit 5: ...
Unit 6: ...
Unit 7: ...
Unit 8: ...

アルファベットの発音
アルファベットの書き方
アルファベットの音の聞き分け
アルファベットの音の聞き分け

Picture Dictionary 「英語で何ができるようになるのかな?」 (pp.44-45)

What would you like?

Picture Dictionary (pp.8-9)

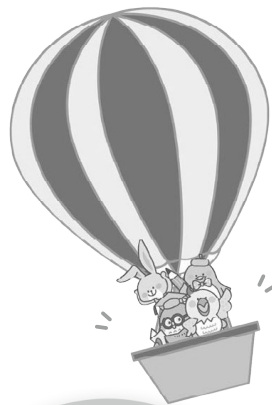
評価に対応

- 評価1: Starting Outの「聞くこと」
- 評価2: Your Turnの「話すこと(やり取り)」
- 評価3: Enjoy Communicationの技能統合
※発達段階に応じた「読むこと」「書くこと」
- 評価4: Check Your Stepsの技能統合
※パフォーマンス評価対応、「話すこと(発表)」

密接に
関連

「どのように学ぶか」を示す教科書

小学校で初めて教科になる英語の教科書に求められる最大の条件は、小学校の児童・教員の負担に配慮しつつも、中学校の新学習指導要領の目標との間にギャップのないゴールを保障することです。文部科学省教材『Let's Try!』や『We Can!』の指導内容を拠り所に、あらゆる「学び方」の選択肢を用意して、個に応じます。



カリキュラム・マネジメントの工夫

1) 小中高接続の必須事項を「学び方みつけた!」に特設5年に3か所あります。教室英語、強勢、音変化は、小中高接続の重要なポイントです。指導の時期を特定せず、実態に応じていつでも何度でも扱えるようにしました。



「強勢・音変化」(p.64)

2) 単語の定着のための練習方法を児童と指導者で選べるLet's Try Let's Try 1は、脚注 Word Link で Picture Dictionaryにつなぎ、ゲームを選んで短時間学習でも扱えます。ゲーム集は、教師用指導書に用意します。



Starting Out [Let's Try 1] (p.11) と、リンクする Picture Dictionary (p.24)

3) 家庭や地域との連携でも活用できる Over the Horizon 教室における指導時数内に限らず、自学自習や地域と連携した課外授業でも活用できます。総合的な学習とも関連させて、調べ学習もできます。



「町で働く人々」(pp.44-45)

ICT活用の工夫

次の箇所に設置されたQRコードでは、英語学習に不可欠な音声や映像を使った「学び方」のために、さまざまなコンテンツを提案します。音声と映像を選べるなど、環境や必要に応じて活用できます。デジタル教科書や各種教材、教師用指導書では、これらをさらに充実させ、また多様な形でご用意します。

1) Starting Out/Enjoy Communication/Over the Horizonからの「聞く」と「見る」

ペア・グループワークの進め方、ドラマ、外国人インタビュー、海外映像を視聴できます。



QRコードの画面 (一例)

2) 歌やチャンツ/Your Turn/学び方みつけた!/Sounds and Lettersからの「聞く」、STORY TIMEからの「見る」

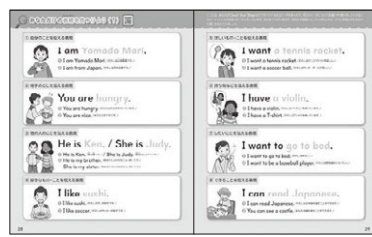
英語の対話や特徴的な音を捉えた楽曲や対話練習用音声、読み物教材の朗読モデルを視聴できます。



QRコードの画面 (一例)

3) Picture Dictionaryからの「聞く」

メトロノームの音に合わせた発音練習を短時間学習や家庭学習で行えます。表現のまとめもあります。



「あなただけの表現をみつこう」(pp.38-39)

観点別特色の一覧

教育基本法の 遵守

- ・国際社会を生きるすべての日本人に求められるコミュニケーション能力を育みます。(全体)
- ・「日本」をテーマとする5年でも、海外情報のLet's Watch and ThinkやOver the Horizonを全Unitでしっかりと取り扱って、自国と比較しながら、外国の生活や文化を理解し尊重する心を育み、**国際社会の平和と発展に寄与する態度**を養います。(全体)

学習指導要領の 遵守

- ・小学校学習指導要領(外国語科)に示された目標に則り、すべての項目の指導に最適な教材およびアルファベットの文字を扱っています。(全体)
- ・小学校学習指導要領(総則)に記された、「教育内容の主な改善事項」を受けて、言語能力を確実に向上できるように、**言語活動を充実**させています。(全体)

オリンピック・パラ リンピックへの対応

- ・2020年にわが国で開催される**東京オリンピック・パラリンピック**の精神に則り、思考力・判断力・表現力を身につけられるように、適切な教材を取り扱っています。(p.53, 75, Picture Dictionary p.7)

伝統文化への 対応

- ・世界に**日本の良さを発信**しようとする児童を育てられるよう、**伝統や文化**に関する題材を豊富に取り上げています。(pp.65-83など)

道徳教育との 関連

- ・**キャリア教育**や**国際理解**の題材を随所に配置しながら、2学年を通して、単元のテーマの流れを「**特別の教科 道徳の四つの視点**」に関連させ、「**自分**」→「**人**」→「**社会(世界)**」→「**生命や自然**」に関わりを広げています。(5・6年表紙裏-p.1「学びのロードマップ」)

内容・系統(中学 年用『Let's Try!』 との関連)

- ・2学年を通して、**コミュニケーション活動の目的・場面・状況及び言語の働き**などの要素がもれなく扱われており、これらの諸要素を自己紹介や夢宣言で**繰り返し系統的**に扱っています。(全体)
- ・巻末コミュニケーションカードは**名刺カード**や**絵はがき**などゆるやかに難易度を上げ、それらを組み合わせて**パンフレット**や**ガイドブック**にするなどして関連づけられています。(pp.82-83など)

組織・配列・分量 (スパイラル・ 学年間接続など)

- ・全Unitが、「①音で表現・語彙に出会う[**聞く**]→②音を使って会話に慣れる[**話す**]→③コミュニケーションを楽しむ[**技能統合**]→④世界を広げる[**探究活動**]の見開き4パートで構成されているので、**指導の流れ**が分かりやすくなっています。(全体)
- ・言語活動、題材内容、言語材料は、**中学年外国語活動の既習事項を新学習事項に関連**させ、ゆるやかに難易度が上がるため、児童の発達段階に適合して無理なく**児童の自己肯定感**を高めます。(Picture Dictionary p.34・37「3・4年生で学習した主な表現」pp.44-45「CAN-DOリスト」)

学びやすさ・ 特別支援への配慮

- ・各单元内は、**学習要素がすべて定位置**に示され、**特別支援への配慮**があります。(全体)
- ・特別支援教育の専門家の助言の下、書体は児童がそのまま書き写して学べる**新ユニバーサルデザイン書体**を使用し、**4線ノート**の幅や線種、**基線の色**使いにも細心の注意を払いました。(全体)

教えやすさ・カリキュ ラムマネジメントへの配慮

- ・紙面が**上中下に三分割**され、上(Let's Sing / Let's Chant)は単元を通して、中はまとまりのある45分授業用、下(Small Talk / Word Link / Sounds and Letters)は45分授業を支える短時間用を想定したレイアウトになっています。これらを**組み合わせ**て、**各学年70時間**の指導時数の**カリキュラムをマネジメント**するための配慮があります。(全体)

基礎的・基本的な 知識、 技能別コミュニ ケーションの能力育 成への配慮

- ・**音声から文字への流れ**を重視しつつ、各单元において、「聞く→話す(やり取り・発表)→読む・書く」が、**技能別に強化**されるための**一定の流れ**があり、確実に習得できます。(全体)
- ・児童が巻末コミュニケーションカードなどを活用しながら、自分で選んだ英語を使って行う活動が豊富で、「主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」ができます。(全体)
- ・児童が友達や先生について知りたくなるしかけて、**思考力・判断力・表現力を働かせて言語材料を使う場面が繰り返し登場**するので、コミュニケーション能力の基礎が確実に身に付きます。(全体)
- ・読み書きの指導においても、機械的なドリル練習ではなく、**必然性のある楽しい学び合い**を通じて、**他者や自分を大切に**する**コミュニケーション活動**につながられます。(全体、pp.86-96)

多様な指導・ 学習環境への 対応(ICT)

- ・英語学習に不可欠な**音声や映像を使った「学び方」**のために、豊富なコンテンツを紙面QRコードやURLで提案します。通しのストーリーのドラマ、ペア・グループワークの進め方や指導の手順、発表のモデル映像、外国人インタビュー、海外映像、歌やチャントなどがあります。音声と映像を環境や必要に応じて活用できます。デジタル教科書や各種教材、教師用指導書ではこれらをさらに充実させ、多様な形でご用意します。(p.10, 11, 13, 14, 17, 42など)



資質・能力への対応

・Over the Horizonは、このページで学んだ児童が、発見したり疑問に思ったりして心を動かした体験をもとに、文字通り「水平線を越えて」世界にはばたく未来を考えるきっかけになればと願い、**思考力・判断力・表現力**を高める教材として編修されています。(pp.80-81など)

学習方法・授業展開への配慮 (主体的・対話的で深い学びに向けて)

- ・Enjoy Communicationの活動は、Starting OutとYour Turnで十分に**インプット**された知識を使った**アウトプット**になるため、コミュニケーションの達成感や題材内容の理解において無理のない設定となっており、**児童の自己肯定感**を高めます。(pp.10-15など)
- ・**歌やチャンツ**を活用した言語材料への慣れ親しみを特に重視しています。**can**と**三人称**を扱う単元では、四種類のチャンツを用意して、I, you, he/she, 肯定文、否定文、疑問文を丁寧に扱っています。(p.39)
- ・モデル文をヒントに、児童が自分で選んだ言葉で話したり書いたりするときの材料を、いつも横に並べて活用できるように、単語・表現集のPicture Dictionaryは別冊にしています。**スパイラルに登場する言語活動**で、同じジャンルの単語集から繰り返し学べるメリットがあり、**語彙の定着**に効果があります。(Picture Dictionary pp.4-31)
- ・**音声・文字指導**はUnit脚注のSounds and Lettersから巻末にリンクして、毎時少しずつ積み上げられます。(pp.86-96)

地域・社会・家庭との連携への対応

- ・児童が授業で作った成果物、例えば、地域のおすすめパンフレットや日本紹介ガイドブックなどを活用して、**国際交流体験プロジェクト**につなげることができます。(pp.62-63, 82-83など)
- ・Over the Horizonは、**自主学習用・家庭学習用**とすることもできます。

学習の習慣化への取り組み (規律・態度など)

- ・Picture Dictionaryの単語パートのQRコードを使えば、メトロノームの、英語のリズムを意識した発音練習が楽しく行えます。5・6年生の基本表現のまとめは、2年間使い続けることで**中学校への確かな学び**を実現します。(Picture Dictionary全体)



言語に関する配慮 (小中高接続を含む)

- ・Over the Horizonには、**日本語と英語を比べて語順の違いに気付きを与えたり、英語特有のリズムに注意したりする**「ことば探検」のコーナーがあり、**国語科**との関連を図っています。(p.16)
- ・「学び方みつけた！」のコーナーでは、**中学年や中学校、高等学校との接続**を意識して、おさえておきたいアルファベット、音節・音変化などを扱います。(p.8, 36, 64)

指導計画の工夫 (複式指導を含む)

- ・同じ題材を系統立てて繰り返し扱う構成は、積み上げ部分を意識的に指導できるメリットがあるほか、**複式学級指導**にも適しています。「自己紹介」5年pp.10-17と6年pp.6-13)
- ・Over the Horizonは、**総合的な学習や道徳科**と合わせても効果的に指導できます。(pp.16-17)

他教科との関連 (ESDを含む)

- ・CLILの専門家の助言のもと、**社会科、算数、家庭科、国語科、図画工作科、音楽科**などとの関連をしっかりと図っています。(p.49, 57, 80, 83)
- ・**プログラミング教育**に関連して、**キーボード**を掲載し、児童が音を聞きながら実際に指を置いて練習できるページを設けています。(Picture Dictionary pp.42-43)

造本の工夫 (書き込み・評価・ポートフォリオの機能性など)

- ・毎単元後半で、活用した巻末コミュニケーションカードを、年間三つの学習のまとめりの位置にあるCheck Your Stepsに貼り込んで、**再度発表活動に挑戦し、評価や振り返りの材料を見える形で記録に残す**ことができます。(pp.82-83など)
- ・紙は**軽くて丈夫**、かつ**裏抜けのしにくいもの**を使用しています。(全体)
- ・巻末は**書き込みのしやすい用紙**に変更しています。(pp.85-96)

2 対照表

配当時数計：70

配当月	配当時数	単元名・内容名	学習指導要領	該当箇所
5年		※Picture Dictionaryを含む		
4	8	学び方みつけた! ①: 教室英語 Unit 1: Hello, friends. (名前・好きなこと)	(1) ア・イ・ウ・エ, (2) ア, (3) ①ア (ア)	8~17
5	8	Unit 2: When is your birthday? (日付・ほしい物)	(イ)・イ (ア) (イ)・ウ・エ (ア) (イ)・オ (ア),	18~25
6	8	Unit 3: What do you want to study? (教科・職業)	②ア・イ, 3 (1) ウ (2) (3)	26~33
7	2	Check Your Steps 1: 外国の人に自己紹介をしよう 学び方みつけた! ②: アルファベット		34~36
9	8	Unit 4: He can bake bread well. (できること)	(1) ア・イ・ウ・エ, (2) ア, (3) ①ア・イ	37~45
10	8	Unit 5: Where is the post office? (道案内)	(ア) (イ) (ウ)・ウ・エ・オ (ア),	46~53
11	8	Unit 6: What would you like? (買い物)	②ア・イ, 3 (1) (2) (3)	54~61
12	2	Check Your Steps 2: 地域のおすすめを紹介しよう 学び方みつけた! ③: 英語の文		62~64
1	8	Unit 7: Welcome to Japan. (日本の文化)	(1) ア・イ・ウ・エ, (2) ア, (3) ①ア・イ・	65~73
2	8	Unit 8: Who is your hero? (頻度・人物紹介)	ウ・エ・オ (ア) (イ), ②ア・イ, 3 (1) (2)	74~81
3	2	Check Your Steps 3: 「日本のすてき」を紹介しよう STORY TIME: A Bundle of Sticks	(3)	82~84